

脳発達・発達障害におけるmiRNAを介した 転写後遺伝子発現制御基盤と医療応用への展開

miRNA-mediated posttranscriptional gene regulation in the brain
development · developmental disorder and therapeutic strategies

辻村 啓太 博士

Dr. Keita Tsujimura, Ph.D.



名古屋大学大学院医学系研究科 精神医学分野

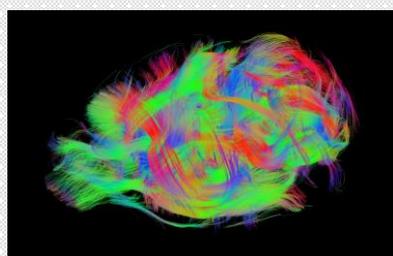
兼 高等研究院 (精神障害の共通病態を標的とした創薬研究ユニット 代表)

Assistant Professor @ Dept. of Psychiatry, Nagoya Univ Grad School of Medicine

AMED 創薬総合支援事業 創薬ブースター「新規精神・発達障害治療薬の探索」主任研究者

AMED 難治性疾患実用化研究事業「MECP2遺伝子変異に起因する脳発達障害における分子シグナル病態の解明と新規診断・治療法の基盤開発」主任研究者

ヒトを含む哺乳類の脳発達は精巧な遺伝子発現プログラムによって規定されている。近年、microRNA(miRNA)をはじめとするノンコーディングRNAが発見されて以来、これまで考えられていたよりも複雑で巧妙な転写後の遺伝子発現制御機構が次々と明らかにされてきた。一方、患者数の増加とともに発達障害の病態解明と有効治療法の開発が強く望まれている。我々はこれまで、単一遺伝子MECP2の変異により発症する発達障害・レット症候群の分子病態を研究し、本疾患の発症にMeCP2によるmiRNAを介した転写後遺伝子発現の制御不全が重要な役割を果たしていることを明らかにしてきた。本セミナーでは独自の分子メカニズムに基づいたマルチスケールな発達障害病態研究に加え、基礎と臨床の連携による医療応用への取り組みについて紹介する。



Selected References: (#Corresponding author)

辻村啓太、尾崎紀夫 最新医学 (2019)

Keita Tsujimura# and Kinichi Nakashima#, *Springer* (2018)

Hideyuki Nakashima, Keita Tsujimura#, et al., *J Neurosci* (2018)

Koichiro Irie, Keita Tsujimura#, et al., *J Biol Chem* (2016)

Keita Tsujimura et al., *Cell Rep* (2015)

2019.10.28 (Mon) 17:00-18:15

理学南館 1F セミナー室

1F Seminar Room, Science South Building

お問い合わせ先：生命理学 木下 専 (3653)